

3 自治体の節目健康診断

普通はタダほど高いものはないが、役に立つこともある

11月に受けるはずの妻の節目健康診断は、私の亡父の法事で遠方の墓所へ二人で旅に出たなど、忙しさに紛れて申し込むのが遅れてしまい、1月の分に回ってしまった。肝心なことを後回しにしてはいけないという教訓である。

この1月の節目健康診断で妻の血液検査の結果が限界を超えているとの指摘があり、保健所で医師の診察を受けたところ、「肝臓などの指標のALPの値が上限をいくらか越えているので、精密検査をしたほうがよい。」とのことで、その医師の所属病院である都内のN大学附属病院を紹介された。

なお、ALPについての詳しい説明は、<http://www.naoru.com/kensa1.htm> を参照されたい。

じつはALPの値は5年前の節目健康診断でも今回の値と大差なかった。そのときは、肝臓の他の数値がそれほど悪くなかった(でも今回とほぼ同じだった)ので、「大丈夫でしょう。」という無責任な診断で終わってしまった。

節目健康診断では、妻はこのほかに肺や胃の撮影や何と大便の潜血反応までも行ったが、異常は出なかった。

定期検診だけでは不足である

私も先日、勤務先で実施されるこのような健康診断を受けた。たった1時間で終わる簡単なものである。毎年健康診断を受けているが、いまだに多少の肥満以外の件は指摘されたことはない。私自身は、勤務先以外にも自治体を実施する健康診断など複数の健康診断を受診している。高い費用を払う人間ドックも受診した。しかし、5万円程度の間ドックでは検査の内容は保健所や勤務先の健康診断とほとんど変わらない。

それにもかかわらず、ここ数年で何回も病院へ行き、血管障害(心筋梗塞や脳梗塞の原因)や関節、胃などを見てもらった。それぞれ異常が見つかって薬を処方してもらったり、さらに精密な検査を受けたこともある。

結論として、妻の場合は5年前の健康診断では見逃されていた異常な数値が、今回は幸いにも精密検査の対象となった。5年前に今回異常に気付いた医師が診断を下していたら、事情は変わっていたかもしれない。その意味では、この医師には感謝に耐えないが、「健康診断や人間ドックの検査技師や医師は、神様ではないのですべての問題点を指摘することはできない。」ということを知るべきである。

情報は自分で集めよ、そうしないと真剣にならない

自覚症状がなくても、別の兆候が感じられたら自分で判断せずに積極的に検査を受けに行くべきである。このときに必要なのは情報である。Internet上には下手な医者よりも正確な情報が多々ある。その中から自分で納得がいく検査を受けるか、そのようなことが相談できる医師をさがすべきであらう。

年1回の職場や自治体の健康診断だけですませてはいけない。常時危機感を研ぎ澄ませておくことが、癌で犬死にしない秘訣である。

この項終了

©2003 Dr.YIKAI